

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	くまもとケアセンターそよ風
(ユニット名)	上通り
所在地 (県・市町村名)	〒862-0914 熊本県熊本市山ノ内3-9-27
記入者名 (管理者)	浦田 美鈴
記入日	平成 21 年 3 月 9 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	GH独自の理念もGH会議にて唱和しより意識づけをおこなっていききたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	苑での催し物では、地域の方を迎えることにより日常的なつき合いに繋がるようにしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	参加するだけでなく顔馴染みの関係に繋がるよう交流を重ねていきたい。利用者の徘徊による離苑の際に、地域の方の協力が得られるような関係づくりに繋げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域のいきいきサロンに参加させて頂き、健康相談や催し物のサポートをしている。	○	催し物については併設のDS職員が主体となりおこなっている為、GH職員・利用者もいきいきサロン参加していくよう調整していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価は職員全員で取り組んでいる。改善点は職員に周知し改善に向けて努力している。(例えば、請求書をより詳細に明記し、ご家族に解かりやすくした等)		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	8月よりご家族、地域の方より各2名ずつ委員となっただき、2ヶ月毎に実施している。又、地域包括や市からの出席もあっている。火災避難訓練に地域からの参加があり、地域との連携に繋がっている。	○	利用者の日常のご様子も観て頂く機会を設け、意見をいただく機会を設けていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市への問い合わせ、相談は出来る体制にある。市への提出書類はGH職員にて行い、市の担当職員と顔馴染みの関係づくりを心掛け、相談等行いやすい関係作りに繋げている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	財産管理を行ってもらっている利用者の方もいらっしゃるため、第三者の存在は理解できているが、制度の仕組みについて学ぶ機会を設けることができていない。	○	外部・内部研修にて制度の仕組みや学ぶ機会を取り入れたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	対応については、職員会議や御家族とその都度検討し改善している。	○	外部・内部研修の機会を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の説明は事前に書類を送付し、内容を確認された上で、入居前には、必ず身元引き受け者(2名)に説明の時間を作っていただき納得した上での契約を結んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者との会話時間をゆっくりともち、利用者の話に耳を傾けるよう心掛けている。利用者より対応について不満や意見があった際は、本人が納得して頂ける改善を職員全員で検討している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時には必ず、勤務者が近況報告・連絡事項等を話す機会を設けている。面会に来られないご家族については、電話や便りを出し報告している。職員の移動に関しては、移動職員が直接挨拶したり、「そよ風だより」にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を運営者とし、職員へは文書や会議で改善説明もできており、外部の苦情も処理できている。	○ ご家族来苑時、センター長にGHへ来ていただき、ご家族との会話にて意見等確認していただくようにしたい。家族会にてアンケート調査等を実施していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議・全体会議にて職員個々の意見を反映できるようにしている。	○ 管理者との個人面談を行なって行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出勤時間の調整・行事は、職員数を確保する等対応は柔軟にできている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員の交代は事前説明を行う様には心掛けている。職員が代わる際には、利用者へ引き続き同様の支援が行えるよう自己紹介シートを活用している。離職者には可能な範囲で離職理由をたずね必要であれば改善に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階に応じ研修の機会を設けている。事業所全体にて毎月勉強会を実施し、スキルアップの機会に繋げている。本社からのコンプライアンス委員会を適宜に受けることによりトレーニングしている。</p>	<p>○</p> <p>職員から自発的参加希望に繋げたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回「グループホーム連絡協議会 熊本市ブロック連絡会」に参加し意見交換を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>近隣GHとも協力し、交換実習を行いたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ユニット職員での食事会の企画や他そよ風事業所との親睦会を通じ、気分転換を図れる機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>個人面談を実施し、一人一人の状態把握に努めていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場を訪れ利用者や過ごし、職員の業務上の悩みを把握している。年2回職能に応じ昇格の機会も設けている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談の機会を設け、ご本人とご家族、担当者とお話をし、生活状態や本人の求めている事等の把握に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用2週間以内にご本人とご家族を踏まえ、担当者会議を開催し、一緒に介護計画を立てているが、中々、ご本人の意見が聞けず、ご家族と職員だけの話し合いになっている。</p>	<p>○</p> <p>日常生活での会話や仕草の中で、本人の望みや不安な事を理解していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を把握し、ご本人やご家族の希望を聞き、可能な限り対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	DS利用や有料体験利用を取り入れているが、緊急入居となられた為、ご本人の納得を得ないままの入居となってしまった。	○	入居希望時、ご本人も来苑していただき苑の様子を観て頂く。又、可能な限り体験利用して頂き納得した上での入居に繋げたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々なお話を伺いながら学ばせて頂く。又ご本人の悩みや淋しさ等を会話の中で受け取り解決出来るよう、一緒に考えたり喜びや楽しみを共感し信頼関係に繋げている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時にご本人の様子を伝えたり、又、反対に昔の話を伺いコミュニケーションを図っている。その際、ご家族の希望も尋ねてそれをふまえた上で支援する体制をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方に住んでいらっしゃるご家族にはお手紙でご本人の様子を伝えている。又、年末年始、お盆等ご家族と共に過ごして頂ける様、送迎等の支援も行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいらした土地と一緒に足を運んだり、大切にされていた物を持ち帰り居室に置かれたりされている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話の際は職員が間に入り話を繋げたり、レクリエーション等を通して一つの空間で過ごす時間が増えるよう機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	外出の際や誕生日には、出来る限り利用者と共に御見舞いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を傾聴し記録に残す事で職員間で把握し、それぞれがご本人に対して働きかけ、希望された熊本城への外出を実現できた。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に尋ね、昔話をしたり、ご家族やDrにお伺いし、情報収集している。それらは個人ファイルに記載し職員間で把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の中で気付いた点は記録に残し、職員で情報共有し把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中で本人の希望を見つけGH会議にて職員で意見をまとめ、ご家族とサービス担当者会議で話し合い、プラン作成を行なっている。ご本人の会議参加はできていない。	○	本人を含めた担当者会議を開いていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各月末にはモニタリングを行なっている。又、3ヶ月に1回程度でプランの見直しをしている。状態変化があった場合は、その都度会議で話し合い追加プランを作成している。評価表にはご家族の意見を書いて頂き、次回プラン作成に繋げている。	○	初回ケアプラン作成時にしか担当者会議を開いていないので、今後更新時前に開いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を基にプランの終了か継続かの判断材料となっている。介護計画以外の記録も多いが、どのような1日を送られたのか良くわかり、支援に役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	誕生日は特別な日としてご本人の希望に応じ、外出・外食等の個別対応を行っている。又、ご家族参加の一泊旅行も計画し実行した。その他、DS慰問等の参加も呼びかけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域から踊りの披露をして頂いたり、民生委員の方と外出をしたり、おやつ作りの参加協力があつた。徐々に地域との繋がりが協力ができつつある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容サービスを利用して頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらうようになった事で、相談しながら協働していく体制作りを行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や以前からのかかりつけ医と連携を保ちながら、適切な医療を受けられる様に支援している。又、受診をご家族が対応している場合は、報告書を作成しDrへ申し送りをを行い、同伴できないご家族には結果を報告している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も日常の様子や精神状態を観察し医師へ報告を行っていき、ご本人に合った治療を受けられる様、支援していく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>職員がどこまでの対応ができるのか協力医と話し合いながら、方針を設けていく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>できる事・できない事の取り決めを見極めていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常にプライバシーを損ねないよう心掛け対応している。又、個人情報となるものは鍵つきの棚に保管している。面会簿は各個別にし記入して頂いている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者との談話中、リラックスされている中で、ご本人の希望を伺うようにしている。確認が出来ない方に対しては表情や仕草等よく観察していき、ご家族にも相談しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夕方の団欒時、メドマー・ホットパック希望のある方には対応している。入浴の希望や買い物・外出等の希望にも随時対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前から行かれていた床屋・美容室がある方は現在も利用されている。又、訪問理容においては、好みの髪型を伺い対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回「美食祭り」の日を設けている。又、透析食については、研修会を開き少しでも喜んで頂ける様にしている。又、徐々に食器を増やしていき目で楽しむ食事にも心掛けている。食事作りも3食共、GHで作るようになった。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師からの制限がない限り、ご本人の好きなものを食べて頂いている。副食もご本人に合わせた内容(刻み・ミキサー等)で提供している。水補時にはココアやコーヒー、ヤクルト等、ご本人を選んで頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、誘導している。利用者からの訴えがあった際はすぐ対応している。又、利用者の潜在能力を生かしていただける所はご本人に行なって頂き支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴日は設定されていないが、体調を考えながら、ほぼ1日おきに入っている。浴室内では会話を多くし、リラックスできる環境作りを行なっている。又、入浴拒否された場合はしばらく時間を置き、再度声かけしているが拒否された際は強く勧めていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出等に出掛けられた後は疲れが残らないよう休んで頂いたり、入浴後ゆっくりして頂いている。夜間眠られない場合は、医師と相談し安眠に繋げる様、眠前薬を服用して頂いている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中では、洗濯たたみ・皿拭き等手伝って頂いている。季節感を味わっていただくようドライブに出掛けたりイベント行事ではご家族より情報を聞き、以前よく行かれていた場所や趣味等を取り入れ楽しみを見出している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面では職員側で管理している。数名の方はお小遣い程度持参され、外出の際、自ら支払われている。他の方に対しては希望に応じて、職員立会いのもと使用されている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日決められた外出はないが近所へ買い物へ行かれたり、地域の催し物に出掛けたりしている。外出を楽しんで頂く為、歩行訓練をしたりメドマー・ホットパックを使用し潜在能力維持に繋げている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には前もってご本人へ行きたい所や、したい事等をお聞きし、計画を立て実行している。又、ご家族からも旅行の希望があった際は職員同行を行う事もある。主に日曜日は利用者の体調を考えながらバスハイク等計画し気分転換を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り利用者のご家族と電話や手紙のやり取りができる様支援している。荷物が送られてきた場合は、直接お礼の連絡をして頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・知人の方が訪問された際は、各利用者の自室にてゆっくりと会話して頂ける様な環境作りをきがけている。イベント時には参加を呼びかけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針である。転倒の危険性のある利用者に対しては目を離さず、1対1の対応をする事で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	気がけてユニット間の扉は開放しているが、冷房・暖房使用時は閉めている。又、日中のGH玄関は日曜日のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子を把握できる様、職員間の声掛けや見守りを行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に対しては、目や手の届かない場所に保管したり物品に説明・注意書きを行い管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	内服薬は個別に管理・保管し誤薬のないよう細心の注意を払っている。他、定期的な防災訓練を行っている。又、ちょっとした事でも「ひやりはっと」を作成し職員同士で事故防止について考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。急変や発生時には意識確認・状態確認後、医師への指示を仰いでいる。事業所全体で勉強会を行なっているが、定期的な訓練を行っていない。	○	各事故を想定した、応急手当や初期対応の訓練を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主避難訓練は、概ね月1回とし、消防署からの指導訓練も設けている。地域の方にも訓練の様子を見て頂いた。	○	地域の方にも参加して頂く消防訓練の計画をしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には必ず最近のご様子をお伝えし、リスクがあれば対応方法をご家族と共に話し合っている。来られないご家族に対しては電話にて話し合いの場を設けている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い体調の異変を発見した際は管理者報告と共に、担当医に連絡し支持を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬回数は理解している。又、服薬内容の変更があった際は様子観察していき細かく記録に残し医師へ報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤調整が必要な方は随時行なっている。その他、水分補給時、牛乳やココア等も勧めている。WC介助時には腹部マッサージ等を行い、排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎週1回、歯科衛生士による口腔ケアを受けていただいている。職員も指導を受け、毎食後の口腔ケアを対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の体重チェックや食事の摂取量を記録しそれに応じて摂取量の乏しい方に対しては高カロリージュース等を利用し栄養補充を行なっている。	○	貧血の方も多いため、今後もチェックや記録を続け一人一人の栄養バランスや水分量を把握していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成したり、勉強会の実施・研修参加等を行い職員の意識付けを行なっている。又、苑外からの感染を防ぐ為に玄関やホールに消毒液を設置したり、手洗いや嗽を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の布巾消毒の他、週2回「消毒の日」を設け調理器具や口腔ケア物品の消毒を行なっている。キッチン周りだけでなく冷蔵庫内も整理し清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口が入り込んでいる為、日中はDS送迎車を移動し外部からも分かりやすくしている。入口前には看板を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感を意識して飾りつけをしている。又、廊下奥のパーソナルスペースでは利用者同士でくつろいで会話ができる様にソファを設置している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースの中、食事用テーブルを背にしTVを見られる様、空間作りに励んでいる。廊下奥にも利用者同士で会話できるようにソファを設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真を飾ったり、自宅から持って来られた昔馴染みの物を飾られたり、観葉植物を置いたりリラックスできる空間作りを行なっている。又、入口表札はご本人と共に定期的に作りかえている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	WCは常に換気扇をつけている状態である。又、冬の間はWC内にもヒーターを設置している。居室内は乾燥しない様、加湿器を設置しこまめに空気の入替えを行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の段差をなくし支障のない様、物は必要最小限にし、WCや居室への誘導は手引き歩行し易いようしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物たたみやお茶入れ等、できる事は自力又は、一緒に行なっている。他、上手く表現ができない方に対しては、常に声掛けし表情や仕草で読み取りができる様に心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに植物を植える事で、利用者が気軽にベランダに出れるようにしている。	○	季節に応じて、花の植え替えを行なっていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の望まれる事は可能な限り対応している。又、ご家族とのコミュニケーションも多くし職員との信頼関係作りに力を入れ取り組んでいる。